

平成25年12月24日
独立行政法人
日本原子力研究開発機構
敦賀本部

米国情報「電源系統の設計における脆弱性」に係る報告について
(お知らせ)

当機構は、米国情報「電源系統の設計における脆弱性」に係る報告書を、本日、原子力規制委員会に提出しました。

本報告は、原子力規制委員会より平成25年10月24日に発出された『米国情報「電源系統の設計における脆弱性」に係る報告の指示について』（平成25年10月24日付、原規技発第1310091号）に基づき、高速増殖原型炉もんじゅ（以下「もんじゅ」という。）における調査結果をとりまとめたものです。

この結果、「もんじゅ」の電源系統においては、米国情報による1相開放故障※に係る事象を把握することが可能であり、非常用ディーゼル発電機の起動や待機側の電源系への切替により、安全上の問題に至る前に、事象を収束することが可能であることを確認しました。

1相開放故障に係る事象の把握をより確実にするために、「もんじゅ」は、当該事象の内容及びその対応方法について、運転員に周知・教育を行っており、運転手順書に反映する予定です。

今後、米国原子力規制委員会及び米国原子力産業界の動向を注視し、設備面の追加対策についても要否を含め検討を行い、安全性、信頼性の向上に努めてまいります。

※：1相開放故障

3相交流電源の電路の内の1相が、断線などにより開放状態となることをいう。米国情報では、Byron 2号機で、架線を支持する箇所が折損し架線と機器の接続部が外れたことにより、当該事象が発生している。

(原子力規制委員会へ提出した報告書)

米国情報「電源系統の設計における脆弱性」に係る報告について

以上